

ISSN 2186 – 3989

ファミリー・ビジネス研究における近年の傾向  
—Family Business Review 誌の掲載論文分析—

津田 泰行

Recent trends in family business research

-Analysis of articles published in the Family Business Review -

Yasuyuki Tsuda

北 陸 大 学 紀 要  
第58号(2025年3月)抜刷

# ファミリー・ビジネス研究における近年の傾向

—Family Business Review 誌の掲載論文分析—

津田 泰行\*

Recent trends in family business research  
-Analysis of articles published in the Family Business Review -

Yasuyuki Tsuda\*

*Received December 19, 2024*

*Accepted February 20, 2025*

抄録

本研究は、日本の中小企業をファミリー・ビジネス研究の対象として検討するために、ファミリー・ビジネス研究に関する近年の動向を明らかにすることを目的としている。先行研究の整理として、ファミリー・ビジネス研究における主要な専門誌である **Family Business Review** 誌に 2020 年から 2024 年に掲載された 80 の論文について、Rovelli *et al.*(2022)の分析に基づいた整理を行った。その結果、中小企業をはじめとした非上場企業の研究は上場企業と比較して、定性的研究が多いことが明らかになった。また、上場企業の研究と比較して、研究の方向性はファミリー・ビジネスの異質性について検討する内容が取り扱われていることを示した。非上場企業の定性的研究のうち、ファミリー・ビジネスの異質性を明らかにする研究を概観すると、外部のアドバイザーとの関係や社内の組織イメージに関する研究などが発見された。このことから、日本の中小企業をファミリー・ビジネスの研究対象とする場合、定性的研究を通じて、長寿企業の要因やネットワークの活用の有無など、異質性を明らかにすることが求められると結論付けた。

キーワード：ファミリー・ビジネス、文献レビュー、定性研究

---

\* 北陸大学経済経営学部 Faculty of Economics and Management, Hokuriku University

## 1. 研究背景：ファミリー・ビジネス研究の現在

ファミリー・ビジネスは、世界経済において最も普遍的な企業組織形態である(Rovelli *et al.*, 2022, p.1)。この企業を分析するために様々な研究がおこなわれてきた。Rovelli *et al.*(2022)は、ファミリー・ビジネス研究の主要な専門誌として Family Business Review 誌(FBR)、Journal of Family Business Strategy 誌(JFBS)、そして Journal of Family Business Management 誌(JFBM)の3つを上げている(*Ibid.*, p.2)。とくに FBR は、もっとも歴史のあるファミリー・ビジネス研究専門誌として、1988年の創刊以来、現在に至るまで数多くの論文を掲載しており、超大企業から比較的小規模な企業まで、あらゆる規模のファミリー・ビジネスに関する論文を掲載している (Family Firm Institute,2024)。

Rovelli *et al.*(2022)は、1988年のFBR創刊から2020年に至る32年間にわたって、ファミリービジネス研究における主要雑誌であるFBR、JFBS、JFBMに掲載された、全ての論文を対象とした書誌学的(bibliometric)分析を行っている (*Ibid.*, p.2)。その結果として、「後継者」、「コーポレート・ガバナンス」、「社会情緒資産(Socio Emotional Wealth :SEW)」、「家族所有」、「企業業績」、「家族性」、「家族のダイナミクス」、「イノベーション」といったキーワードが主に使用されていることを明らかにしている(Rovelli *et al.*, 2022, p.9)。Rovelli *et al.*(2022)によれば、「SEW」、「後継者計画」、「起業志向」、「イノベーション」といったキーワードは近年注目度が増している(*Ibid.*, p.10)。

また、これら3つの雑誌に投稿された論文は北米やヨーロッパであり、「発表された論文の総数では北米がリードしている。しかし、論文1本あたりの被引用数では、カナダが最大で、スイス、フィンランドがこれに続く(*Ibid.*, p.6)」としている。アジアでは中国が23本の論文を投稿している(*Ibid.*, fig.3)ものの、ファミリー・ビジネス研究においては欧米が中心となっていることが明らかであった。

一方で、日本は「質・量(100年、200年以上の社歴を有する会社数)ともに、世界に冠たるファミリー・ビジネス大国(ファミリー・ビジネス学会、2016、2頁)」と言われており、その特徴は現在世界最古とも言われる旅館「慶雲館」をはじめとした、超長寿企業が現在もなお継続していることであるとしている(同上書、14頁)。また、「日本には「番頭」という制度があったが、今日でも形は変われど、多くのファミリー・ビジネスにはこういった機能を果たす人物がいる。彼らは経営者をサポートするだけではなく、時には厳しく指導することでガバナンスを効かせているのではないだろうか(同上書、34頁)」という指摘もある。世界のファミリー・ビジネス研究において「後継者計画」などが注目され始めていることをふまえると、この点でも日本のファミリー・ビジネスを研究することには示唆が含まれていると考えられる。

## 2. 文献レビューの方法論

日本のファミリー・ビジネス研究を検討するために、本研究では、改めて近年におけるファミリー・ビジネスの研究動向を把握する。具体的には、Rovelli *et al.*(2022)で行われた分析を、それ以降に発行された論文に適用し、どのようなトピックが扱われているかを明らかにする。そのためにまずは、Rovelli *et al.*(2022)の分析結果を概観する。

### 2. 1 Rovelli *et al.* (2022)の分析軸

Rovelli *et al.*(2022)は、「FBR、JFBS、JFBMの出版物と引用構造、主要な著者、機関、

国、関心のあるトピック、研究方法を特定すること(Rovelli *et al.*, 2022, *op. cit.*, p.2)」を目的としている。このなかで本研究の目的は、関心のあるトピック及び研究方法が強く関連するため、該当部分について詳しく内容を確認することとする。Rovelli *et al.*(2022)では、著者が指定したキーワードに基づいて、共起ネットワークを生成して分析を行った。

「最も使用したキーワードは「ファミリー・ビジネス」であり、最も頻出するトピックにリンクしている：「後継者」、「コーポレート・ガバナンス」、「社会情緒資産」、「家族所有」、「企業業績」、「家族性」、「家族のダイナミクス」、「イノベーション」である (*Ibid.*, p.9)」としている。頻出のトピックの組み合わせからは、所有と経営に関する「コーポレート・ガバナンス」や「家族所有」、経営学として重視されるべき「企業業績」「後継者」「イノベーション」、そしてファミリー・ビジネス特有の課題を分析する軸として「社会情緒資産」「家族性」「家族のダイナミクス」、といった3つの軸に大別することができる。

また、これらのキーワードの経年変化について、「社会的情緒的豊かさ」、「後継者計画」、「起業志向」、「イノベーション」は、特に近年頻繁に使用されるようになり、ファミリー・ビジネスに関する基本的要素(例：同族所有や経営)から、これらの企業の行動促進要因や機能(例：社会的情緒的豊かさや後継者計画)のより詳細な理解へと関心が移っていることを示している(*Ibid.*, p.9)。ファミリー・ビジネスの特徴として基本的な所有やガバナンスの議論から、ファミリー・ビジネス特有の行動をより詳細に分析する傾向が近年より強まっていることを示しているといえる。加えて新たに「ジェンダー」、「吸収力」、「ファミリー企業の異質性(heterogeneity)」、「企業の社会的責任」、「ファミリーコントロール」といったキーワードにも注目しているとしている(*Ibid.*, p.9)。これについて Rovelli *et al.*(2022)は、「ジェンダーやCSRといった、一般的な経営学の文献においてここ数年関心が高まっているものと一致している(*Ibid.*, p.9)」としており、経営学としての大きな潮流がファミリー・ビジネスにも影響を与えていることを示している。

さらに、キーワードについて地理的特性があり、北米やヨーロッパでは「ファミリー・ビジネス」、「ファミリー・ファーム」、「社会情緒資産」、「エージェンシー理論」といったキーワードを最も頻繁に使用している。アジアの著者が使用したキーワードは、「コーポレート・ガバナンス」、「ファミリー・インボルブメント」、「ファミリー・オーナーシップ」などである(*Ibid.*, p.10)としており、ファミリー・ビジネス研究が活発な北米およびヨーロッパと比べてアジアでは扱われるキーワードが異なっていることがわかる。先述したキーワードの経年変化をふまえると、アジアにおけるキーワードはファミリー・ビジネスの基本的要素について言及しているものが中心であると考えられる。そのため、アジアにおける今後のファミリー・ビジネス研究では、近年着目されている社会情緒資産理論などの活用が求められる。また研究手法については、「事例研究」、「文献レビュー」、「質的研究」、「内容分析」が、最も頻繁に使用される方法／アプローチとして浮かび上がってくる(*Ibid.*, p.10)と示している。

そして Rovelli *et al.*(2022)は、今後の研究課題としては①ファミリー・ビジネスの異質性をより深く検討すること、②何をからどのように、なぜという研究課題に切り替えること、③他の学問分野からの研究成果の活用、④方法論の充実(*Ibid.*, p.12)が重要だと提示している。まずファミリー・ビジネスの異質性については、「同族企業の異質性をより深く追求することは、例えば、後継者、イノベーション、存続、非同族企業への転換などに関して、同族企業の行動や結果のばらつきをよりよく理解するのに役立つ(*Ibid.*, p.12)」としている。

このことは「中小企業として説明される企業群の内実は極めて多種多様である。このような多種多様な企業群で構成される中小企業は「異質多元性」と言われる個別的に多様な存立形態をとっている(佐竹、前掲書、46頁)」という、日本における中小企業研究の考え

方に関連する可能性があると考えられる。この異質性(heterogeneity)と言う単語は 1948 年の山中篤太郎『中小工業の本質と展開』で示されて以来、中小企業研究において長らく多用されてきた(佐竹,2008,166 頁)。このことから、日本の中小企業には世界のファミリー・ビジネス研究に対する示唆が含まれている可能性が考えられる。

次に②何をからどのように、なぜという研究課題に切り替えることについては、「ファミリー・ファームの動機とファミリー・ファームが行うプロセスを深く掘り下げることで、ファミリー・ファームの行動、機能、結果に関する現在の理解を改善することが可能(Rovelli *et al.*, 2022, *op. cit.*, p.12)」であるとしている。

③他の学問分野からの研究成果の活用については「先行研究は、主に、アントレプレナーシップ(例：FBR、JFBS)のような、経営分野の中の狭い学問領域を用いてファミリー・ビジネスを研究してきた(*Ibid.*, p.15)」と指摘している。そして「例えば、ミクロレベルでは感情、心理的基盤、ミクロ基盤、企業、グループ、個人レベルでは真正性、マーケティングとブランディング、危機管理、組織デザイン、社会資本移転、国際化など(*Ibid.*, p.15)」が新たな領域として期待されているとしている。

④方法論の充実については、「2 つの方法でこの分野に貢献する機会がある： 1)まだ研究されていない分析単位を採用することによって、および/または、2)まだファミリー・ビジネスに適用されていない方法を用いることによって、である(*Ibid.*, p.15)」と示している。そして、まだ扱われていない具体的な分析単位として「機能、結果に関するさらなる、あるいはより優れた説明は、その研究を王朝レベル、ファミリー・レベル、プロジェクト・レベルといった異なる分析レベルに移したり、マルチ・レベル研究を実施することによって導き出される(*Ibid.*, p.15)」としている。また研究方法としては、「ネットワーク仲介、ネットワーク分析とビッグデータの利用、生理学的尺度の探求、横断的事例研究から縦断的事例研究への移行など(*Ibid.*, p.15)」が例として示されている。日本企業には長寿企業が多いことから、このなかでファミリー・レベルやプロジェクト・レベルでの縦断的事例研究などが有効ではないかと考えられる。

## 2. 2 日本の中小企業の特性

以上のように、Rovelli *et al.*(2022)は膨大な論文から様々な方向性を示している。本研究は日本のファミリー・ビジネス、とくに中小企業のファミリー・ビジネスを研究対象とした場合に、どのような研究が適しているかを明らかにすることが目的である。したがって、対象となる日本の中小企業についてどのような特性を持っているかを明らかにする必要がある。

佐竹(2008)は、日本の中小企業について「大企業と中小企業が同一産業内で取引関係を持つ場合に、同一産業に属しながらも同一業種ではなく産業連関上の関係が成立している場合に、社会的分業の形態をとることになる(佐竹、前掲書、114 頁)」としており、このことによって欧米には存在しない日本独特の中小企業を形成している(同上書、115 頁)と説明している。黒瀬(2012)は「資本力もなく、規模の経済性も発揮できず、市場支配力もない中小企業が、大企業体制下でもなぜ発展しうるのか。それを産業の拡大という外政要因からではなく、中小企業の内生要因から明らかにする。これは、大企業にはない中小企業固有の発展性を明らかにすること(黒瀬、2012、19 頁)」であるとしている。そして、「中小企業は切り取り方により問題性に満ちた企業も、発展性に満ちた企業も現れる(同上書、17 頁)」としており、多様な中小企業がその異質性によって、問題性や発展性のいずれかを示すことを説明している。これらのことから、大企業よりも経営基盤が劣る中小企業は本来発展することが難しい環境においても、何らかの異質性によって発展性を発揮することが示されている。日本のファミリー・ビジネス研究を行うにあたっては、中小企業のこうし

た特性を踏まえて研究を行う必要があると考えられる。

### 2. 3 本研究のリサーチ・クエスションと研究手法

Rovelli *et al.*(2022)による分析と、日本の中小企業の特性をふまえて、本研究のリサーチ・クエスションを以下のように設定する。Rovelli *et al.*(2022)以降のファミリー・ビジネス研究において、①定量的研究と定性的研究、そして文献レビューの研究はそれぞれどれぐらい、どのようなものがあるか、②非公開企業と上場企業を対象とした研究には、どのような違いがあるか。これらを総合し、最後に③日本の中小企業をファミリービジネス研究の対象としたときに、期待されるテーマはどのようなものがあるかを明らかにする。

まず、Rovelli *et al.*(2022)は 2020 年までの研究論文を対象として分析を行っている。したがって、それ以降に発表された論文について、Rovelli *et al.*(2022)の分析軸に基づく検討を行うことには価値があると考えられる。このことにより、近年のファミリー・ビジネス研究のトレンドを把握することが可能になると考えられる。

そして本研究の目的は日本のファミリー・ビジネス、とくに中小企業のファミリー・ビジネスを研究対象とした場合に、どのような研究が適しているかを検討することにある。そのため、Rovelli *et al.*(2022)以降の発表論文について、研究対象となる企業はどのような存在かを確認する。このことは中小企業を研究対象としたときに、どのような研究が適しているかを明らかにする材料となる。加えて Rovelli *et al.*(2022)が示した、4 つの今後の研究課題についても分析を行う。これによって、4 つの方向性が実際に以降の研究で受け入れられているかを明らかにできると考えられる。

あわせて、研究手法についても分析を行う。定量的研究であるのか、定性的研究であるのか、文献レビューであるのかというカテゴリに基づいて分類を行う。このことと研究対象、そして研究課題の方向性をクロスすることによって、Rovelli *et al.*(2022)以降の研究ではどのような展開がなされているかを明らかにできると考えられる。なお、本研究では主要雑誌のうち、最も歴史が長く、ファミリー・ビジネス研究への関心を高め拡大させてきた(Rovelli *et al.*, 2022, p.1)とされる、FBR の投稿論文を対象とする。Rovelli *et al.*(2022)が対象とした以降の論文を対象とするため、2020 年から 2025 年までに FBR に投稿された 80 の論文(Article)を対象とする。

## 3. 集計結果

以下では、2020 年から 2025 年までに FBR に投稿された 80 の論文(Article)を対象とした、文献のレビュー結果を記載する。分析は Rovelli *et al.*(2022)に基づいて、①研究手法は定量的手法か、定性的手法か、②研究対象は大企業・上場企業か中小・非上場企業かその他の対象か、そして最後に③Rovelli *et al.*(2022)が示したファミリー・ビジネス研究の 4 つの方向性のどれに関連するか、という 3 つの要素についてそれぞれ考察を行う。

### 3. 1 研究手法について

2020 年から 2025 年に投稿された論文の総数は 80 で、年度ごとの内訳は 2020 年 20 本、2021 年 15 本、2022 年 15 本、2023 年 14 本、2024 年が 16 本となっている。年度及び研究手法ごとに集計を行った結果は表 1 のとおりである。

表 1 研究手法ごとの論文数

	2020	2021	2022	2023	2024	総計
定性的研究	4	2	4	7	3	20
定量的研究	10	10	4	7	5	36
文献レビュー	6	3	7		8	24
総計	20	15	15	14	16	80

出所：Family Business Review 投稿論文を集計し筆者作成

5年間の全体では、定性的研究が20本、定量的研究が36本、文献レビューを行った論文が24本となった。合計では統計的手法による分析を行う定量的研究論文が比較的多いことが観察される。しかし、とくに差が大きいのは2020年及び2021年であり、直近3年間の投稿状況からはそれほど大きな差は確認できない。いずれもコンスタントに投稿されているという状況が確認できる。

### 3. 2 研究対象について

続いて、研究対象についての分類を行った。以下では文献レビューを行った24本の論文を除外し、合計56本の論文の研究対象を内容から上場企業、非上場企業、選別の制限なし(上場企業、非上場企業の混合)、それ以外の研究対象の4つに分類した。この場合のそれ以外の研究対象とは、ファミリー・ビジネス周辺の家族を対象としたものや、一般消費者に対してファミリー・ビジネスのイメージを調査したものなどが含まれている。集計結果は表2のとおりとなった。

表 2 研究対象ごとの論文数

	2020	2021	2022	2023	2024	総計
上場企業	6	2	5	8	5	26
非上場企業	6	5	3	4	2	20
制限なし	2	3		1		6
その他の対象		2		1	1	4
総計	14	12	8	14	8	56

出所：Family Business Review 投稿論文を集計し筆者作成

上場企業を対象とした研究が合計で26本、非上場企業を対象とした研究が20本、上場・非上場のいずれも対象とした研究が6本、それ以外の研究対象が4本となっている。全体としては上場企業を対象とした研究が最も多いものの、非上場企業を対象とした論文も決して少なくはないことが明らかになった。ただし、直近3年で集計すると上場企業を対象とした論文が18本に対して、非上場企業を対象とした論文は9本とおおよそ半数になっており、ややトレンドとして上場企業の研究が増加していることが確認できる。

### 3. 3 Rovelli *et al.* (2022)の4つの方向性について

続いて、Rovelli *et al.* (2022)が今後の研究の方向性として示した4項目について、上記の論文の内容を確認して分類を行った。4項目は1つの論文で複数該当する研究も存在したため、合計は論文の総数を上回ることになる。分類項目としては、①ファミリー・ビジネスの異質性をより深く検討すること、②何をからどのように、なぜという研究課題に切り替えること、③他の学問分野からの研究成果の活用、④方法論の充実(Rovelli *et al.*, 2022, *op. cit.*, p.12)が示されていた。集計結果は表3のとおりである。



表3 方向性ごとの論文数

	2020	2021	2022	2023	2024	総計
異質性	10	9	4	7	8	38
どのように、なぜ	12	5	7	5	6	35
他分野の活用	7	4	6	7	7	31
方法論の充実	6	2	7	3	2	20

出所：Family Business Review 投稿論文を集計し筆者作成

全 80 本の論文のうち、およそ半数の 38 本がファミリー・ビジネスの異質性に関する言及を行っている。またほぼ同数の 35 本は、ファミリー・ビジネスにおける行動の「どのように、なぜ」を明らかにするテーマであった。次いで他分野の知見を活用する論文が 31 件と多く、方法論の充実については 20 本にとどまった。最少となった方法論の充実についても全体の 25%である 20 本が取り組んでおり、異質性に関してはその半数が言及していることから、Rovelli *et al.*(2022)が示した方向性は概ね支持されており、研究者たちはこれを明らかにする取り組みを行っていると考えられる。

### 3. 4 各項目のクロス集計による分析

本研究の目的は、①定量的研究と定性的研究、そして文献レビューの研究はそれぞれどれぐらい、どのようなものがあるか、②非公開企業と上場企業を対象とした研究には、どのような違いがあるか、である。このことを通じて③日本の中小企業をファミリー・ビジネス研究の対象としたときに、期待されるテーマはどのようなものがあるかを明らかにするために、以下の分析では大企業(上場企業)と中小企業(非上場企業)の分類と、各要素をクロス集計して、どのような結果が得られるか、さらなる分析を行う。

表4 研究対象と研究手法のクロス集計結果

	定性的研究			定量的研究			その他の対象	合計
	上場企業	非上場企業	制限なし	上場企業	非上場企業	制限なし		
2020	1	3		5	3	2		14
2021			2	2	5	1	2	12
2022	1	3		4				8
2023	3	3	1	5	1		1	14
2024	2	1		3	1		1	8
総計	7	10	3	19	10	3	4	56

出所：Family Business Review 投稿論文を集計し筆者作成

研究対象ごとの差異は、上場企業でより顕著であり、定量的研究が 19 本に対して、定性的研究は 7 本と、3 倍近い差が発生している。これに対して非上場企業は定性的研究と定量的研究がそれぞれ 10 本と同数になっており、研究手法による差は見られない。上場企業での大きな差の理由として、株式公開企業であることから公開されている情報が多いこともあり、データの収集が容易であり、比較可能性が高いという点があげられる。実際に上場企業を対象とした定量的研究の多くは、株式指数の対象企業などでスクリーニングし、公開データによる比較分析を行っている。それに対して、非上場企業はデータをそもそも収集する必要があるため、定量的研究は従業員へのアンケートや経営者へのアンケートなどの定性的な内容も多く、定量的な指標での比較研究が難しいと考えられる。

経年での変化については、それほど特徴的な内容は見受けられなかった。経年での顕著な変化としては、上場企業の定性的研究が直近の 2024 年にかけて増加傾向であるという点である。しかし、もともと大企業の定性的研究がそれほど多くないことを考慮すると、



より詳細な検討が必要であると考えられる。

次に、研究対象と、Rovelli *et al.*(2022)が今後の研究の方向性として示した4項目についてのクロス分析を行った。4項目は1つの論文で複数該当する研究も存在したため、合計は論文の総数を上回ることになる。結果は表5のとおりである。なお、文献レビューの24本は対象外となっているため、合計値は表3とは一致していない。

表5 研究対象と研究の方向性のクロス集計結果

	上場企業	非上場企業	制限なし	その他の対象	総計
異質性	12	14	5	3	34
どのように、なぜ	13	13	3	2	31
他分野の活用	10	6	1	1	18
方法論の充実	4	3		1	8

出所：Family Business Review 投稿論文を集計し筆者作成

上場企業と非上場企業の間では顕著な差は見られない。しかし、上場企業を対象とした論文総数は26本、非上場を対象としたものは20本と総数で比較して差があることをふまえると、ほぼ同数となっている場合は、非上場企業を対象とした研究の方がより積極的に取り組んでいると考えることができる。したがって、異質性の検討に関しては、非上場企業の研究がより活発に行われており、どのように、なぜという研究課題についても、非上場企業がより積極的にとりあげていると考えられる。

本研究の目的である、日本の中小企業をファミリー・ビジネス研究の対象としたときに、期待されるテーマを明らかにするため、非上場企業のみに限定して、この4つの方向性について5年間の経年変化を集計した。結果は表6のとおりである。経年ではやや減少傾向にあるような結果となった。ただし、非上場企業を対象とした研究自体が直近年度に向けてやや減少傾向にある(表1)ことをふまえると、研究傾向として減少しているというよりは、非上場企業を対象とした研究が少ないという結果であると考えられる。

表6 非上場企業の研究の方向性の経年変化

	2020	2021	2022	2023	2024	総計
異質性	5	4	2	2	1	14
どのように、なぜ	3	3	3	2	2	13
他分野の活用	3	1		1	1	6
方法論の充実	1	1		1		3
総計	12	9	5	6	4	36

出所：Family Business Review 投稿論文を集計し筆者作成

最後に、研究対象と定量的研究、定性的研究の分類に対してRovelli *et al.*(2022)の4つの方向性をクロスした結果を集計した。これは本研究の目的である、非上場企業の研究で重視される傾向を明らかにするためである。煩雑なデータとなるため、上場企業と非上場企業を対象とした論文に限定して集計を行っている。結果は表7のとおりである。

表7 定量／定性研究と研究対象、方向性の集計結果

	定性的研究		定量的研究		総計
	上場企業	非上場企業	上場企業	非上場企業	
異質性	2	6	10	8	26
どのように、なぜ	5	6	8	7	26
他分野の活用	3	3	7	3	16
方法論の充実	1	2	3	1	7
総計	11	17	28	19	75

出所：Family Business Review 投稿論文を集計し筆者作成

定性的研究が非上場企業を対象とした研究に多いことはすでに述べたとおりである。Rovelli *et al.*(2022)の4つの方向性をあわせると、定性研究における上場企業と非上場企業の違いとして、異質性の検討を扱った研究が明らかに多いことがわかる。定性研究の総数は上場企業より非上場企業が少し上回っているとはいえ、顕著な結果であると考えられる。逆に定量的研究においては、他分野の成果の活用は上場企業を対象とした研究が非上場企業を対象とした研究の2倍以上となっており、この方向性においては上場企業の定量的研究が積極的に取り組まれていることがわかる。

#### 4. 考察

本研究のリサーチ・クエスチョンは、Rovelli *et al.*(2022)以降のファミリー・ビジネス研究において、①定量的研究と定性的研究、そして文献レビューの研究はそれぞれどれぐらい、どのようなものがあるか、②非公開企業と上場企業を対象とした研究には、どのような違いがあるか。これらを総合し、最後に③日本の中小企業をファミリー・ビジネス研究の対象としたときに、期待されるテーマはどのようなものがあるかを明らかにすることであった。本研究ではFamily Business Reviewの投稿論文を集計し、その結果をもとに、これらのリサーチ・クエスチョンに対する考察を行う。

①定量的研究と定性的研究、そして文献レビューの研究はそれぞれどれぐらい、どのようなものがあるかについては、総数では定量的研究が全体としてはやや多いことが明らかにされた。経年での変化を確認するとやや定量的な研究が減少している傾向が示された。

②非公開企業と上場企業を対象とした研究には、どのような違いがあるかについては、上場企業を対象とした研究には定量的研究が多く、非上場企業を対象とした研究では定性的研究が多いことが示された。このことは、上場企業を対象とした研究が公開データを利用した研究(Chandler *et al.* (2021)、Chang & James (2020)、Chen *et al.*(2022)、Combs *et al.*(2020)など)であり、データの入手が容易であることも関連していると考えられる。逆に定性的研究が非上場企業に多い理由としては、企業の歴史を縦断的に分析することを目指すとした研究(Haag *et al.*(2023)、Hoon *et al.*(2023)、Tognazzo & Neubaum (2020))には比較的規模の小さい企業が適しているといった理由が考えられる。

③日本の中小企業をファミリー・ビジネス研究の対象としたときに、期待されるテーマはどのようなものがあるかについては、これらの結果をクロス集計した結果から考えることができる。まず研究手法については、非上場企業は上場企業と比較して、定性的研究が多いことが確認された。したがって、非上場企業は定性的研究のニーズが高いと考えられる。次に、Rovelli *et al.*(2022)が示した4つの研究の方向性について検討すると、非上場企業ではファミリー・ビジネスの異質性をより深く検討する研究が多いことが確認された。

これらの情報に基づいて、非上場企業では定性的研究が多いことから、定性的研究かつファミリー・ビジネスの異質性について検討を行った研究を抽出したところ、6本の論文が発見された。Tognazzo & Neubaum (2020)はファミリー・ビジネスにおけるルーツが組織のイメージと実際の経営行動、そして業績に与える影響について検討している。de Groote & Bertschi-Michel(2021)は、ファミリー・ビジネスを支援するアドバイザーとの関係について、インタビューによって経年の変化を調査している。アドバイザーとの関係について取り扱った研究は Quarchioni *et al.*(2022)が戦略アドバイザーと経営陣との相互作用、Haag *et al.* (2024)はファミリー・ビジネスのオーナーに提供される法律相談を扱っており、比較的多く扱われている内容であるといえる。そのほか、Sieger *et al.* (2023)はファミリー・ビジネスの事業構成に対する考え方について所在地による比較を行っており、Hadjielias *et al.* (2022)は外部危機に対する同族内のソーシャルキャピタルについて研究を行っている。

非上場企業、かつ異質性を検討課題として取り扱っている研究を概観すると、日本の中小企業を対象とした研究で想定されるテーマの検討が可能となる。日本の中小企業に長寿企業が多いことから、長寿企業の要因を異質性の視点で明らかにする研究がその一つとして考えられる。また企業外のアドバイザーとの関係性が、ファミリー・ビジネスの異質性に与える影響についても複数の研究が存在することから、これらの内容も研究課題として挙げられる。このことは Rovelli *et al.*(2022)の示した研究方法論の充実でいえば、長寿企業の要因は縦断的事例研究と関連し、アドバイザーとの関係性についても、ネットワーク分析などとの関連が考えられる。さらに、ソーシャルキャピタルや組織イメージなど、数値で測定の難しいテーマについて検討している研究が多く投稿されていることも明らかになった。

## 5. 結論と今後の研究課題

本研究では日本の中小企業をファミリー・ビジネス研究の対象として検討するための予備的考察として、Family Business Review 誌の直近5年間に掲載された論文について、その内容を分類することによってトレンドを明らかにしてきた。その結論として、定性的研究が適していること、そして異質性についての検討を行う内容が多いことが明らかになった。加えて数値で測定の難しい内容について明らかにする研究が多いことも示された。具体的なテーマの要素としては、日本の中小企業には長寿企業が多いことから、Rovelli *et al.*(2022)が示した方法論の充実における縦断的研究の適用などが考えられる。あるいは、企業のアドバイザーとなる企業外部のネットワークや、組織に所属する内部のメンバーとの関係性に関する研究などがあり、これらを日本の企業で分析する研究なども考えられる。全体として、ファミリー・ビジネスの異質性を考察する研究は定性研究、かつ非上場企業での研究には多いことがわかった。

本研究の限界として、Family Business Review 誌の投稿論文のみを取り扱ったことがあげられる。Rovelli *et al.*(2022)が分析を行った研究雑誌は他にも Journal of Family Business Strategy 誌(JFBS)、そして Journal of Family Business Management 誌(JFBM)があり、これらの直近5年の文献については分析を行っていない。今後はこれらの雑誌からさらに研究成果を集約することで、より具体的なテーマが発見できると考えられる。

## 参考文献

- Andreini, D., Bettinelli, C., Pedeliento, G., & Apa, R. (2020) "How do consumers see firms' family nature? A review of the literature", *Family Business Review*, No.33, Vol.1, pp.18-37.
- Azouz, A., Antheaume, N., & Charles-Pauvers, B. (2022) "Looking at the sky: An ethnographic study of how religiosity influences business family resilience", *Family Business Review*, No.35, Vol.2, pp.184-208.
- Bauweraerts, J., Cirillo, A., & Sciascia, S. (2024) "Socioemotional wealth and tax aggressiveness in private family firms: The role of the CEO's characteristics", *Family Business Review*, 08944865231223562.
- Becerra, M., Cruz, C., & Graves, C. (2020) "Innovation in family firms: The relative effects of wealth concentration versus family-centered goals", *Family Business Review*, No.33, Vol.4, pp.372-392.
- Bernhard, F., & Labaki, R. (2021) "Moral emotions in family businesses: Exploring vicarious guilt of the next generation", *Family Business Review*, No.34, Vol.2, pp.193-212.
- Bettinelli, C., Lissana, E., Bergamaschi, M., & De Massis, A. (2022) "Identity in family firms: toward an integrative understanding", *Family Business Review*, No.35, Vol.4, pp.383-414.
- Bormann, K. C., Backs, S., & Hoon, C. (2021) "What makes nonfamily employees act as good stewards? Emotions and the moderating roles of stewardship culture and gender roles in family firms", *Family Business Review*, No.34, Vol.3, pp.251-269.
- Calabrò, A., Torchia, M., Quarato, F., Valentino, A., Cambrea, D. R., & Lohe, F. W. (2024) "Family Firms' Shareholder Structure and International Acquisitions: A Differentiated Socioemotional Wealth Approach", *Family Business Review*, No.37, Vol.2, pp.244-266.
- Campopiano, G., Calabrò, A., & Basco, R. (2020) "The "most wanted": The role of family strategic resources and family involvement in CEO succession intention", *Family Business Review*, No.33, Vol.3, pp.284-309.
- Carbone, E., Campopiano, G., Cirillo, A., & Mussolino, D. (2024) "Why and How Do Family Firms Go Public? A Socioemotional Wealth Perspective of IPO", *Family Business Review*, 08944865241273380.
- Carr, J. C., Vardaman, J. M., Marler, L. E., McLarty, B. D., & Blettner, D. (2021) "Psychological antecedents of decision comprehensiveness and their relationship to decision quality and performance in family firms: an upper echelons perspective", *Family Business Review*, No.34, Vol.1, pp.33-47.
- Chandler, J. A., Petrenko, O. V., Hill, A. D., & Hayes, N. (2021) "CEO Machiavellianism and strategic alliances in family firms", *Family Business Review*, No.34, Vol.1, pp.93-115.
- Chang, E. P., & James, S. D. (2020) "Family versus institutional involvement in restructuring: evidence from the communications equipment industry", *Family Business Review*, No.33, Vol.3, pp.310-330.
- Chen, J., Chen, N. Y., He, L., & Patel, C. (2022) "The effect of ownership structure on disclosure quality and credit ratings in family firms: the moderating role of auditor

- choice”, *Family Business Review*, No.35, Vol.2, pp. 140-158.
- Combs, J. G., Gentry, R. J., Lux, S., Jaskiewicz, P., & Crook, T. R. (2020) “Corporate political activity and sensitivity to social attacks: The case of family-managed firms”, *Family Business Review*, No.33, Vol.2, pp.152-174.
- Combs, J. G., Shanine, K. K., Burrows, S., Allen, J. S., & Pounds, T. W. (2020) “What do we know about business families? Setting the stage for leveraging family science theories”, *Family Business Review*, No.33, Vol.1, pp.38-63.
- Cosson, B., & Gilding, M. (2021) ““Over My Dead Body”: Wives’ influence in family business succession”, *Family Business Review*, No.34, Vol.4, pp.385-403.
- Cuevas-Rodríguez, G., Pérez-Calero, L., Gomez-Mejia, L., & Kopoboru Aguado, S. (2023) “Family firms’ acquisitions and politicians as directors: a socioemotional wealth approach”, *Family Business Review*, No.36, Vol.2, pp.223-253.
- Daspit, J. J., Chrisman, J. J., Ashton, T., & Evangelopoulos, N. (2021) “Family firm heterogeneity: A definition, common themes, scholarly progress, and directions forward”, *Family Business Review*, No.34, Vol.3, pp.296-322.
- Daspit, J. J., Madison, K., Nordqvist, M., & Sieger, P. (2024) “Advancing Family Firm Research: The Importance of Multilevel Considerations”, *Family Business Review*, No.37, Vol.1, pp.4-17.
- de Groot, M., Mihalache, O., & Elfring, T. (2022) “Enhancing enterprise family social capital through family governance: An identity perspective”, *Family Business Review*, No.35, Vol.3, pp.306-328.
- de Groote, J. K., & Bertschi-Michel, A. (2021) “From intention to trust to behavioral trust: Trust building in family business advising”, *Family Business Review*, No.34, Vol.2, pp.132-153.
- De Massis, A., Kotlar, J., & Manelli, L. (2021) “Family firms, family boundary organizations, and the family-related organizational ecosystem”, *Family Business Review*, No.34, Vol.4, pp.350-364.
- Dick, M., Wagner, E. & Pernsteiner, H. (2021) “Founder-controlled family firms, overconfidence, and corporate social responsibility engagement: Evidence from survey data”, *Family Business Review*, No.34, Vol.1, pp.71-92.
- Dorsch, T., Jaskiewicz, P., Combs, J. G. & Wulf, T. (2023) “Uncertainty around transgenerational Control: Implications for innovation prior to succession”, *Family Business Review*, No.36, Vol.4, pp.402-425.
- Ellen III, B. P., McLarty, B. D., Medina-Craven, M. N. & Bracamonte, M. (2024) “Microfoundations in family firm research: A review and agenda for theoretically driven future inquiry”, *Family Business Review*, No.37, Vol.1, pp.186-238.
- Family Firm Institute “*About Family Business Review*”  
<https://www.ffi.org/publications/family-business-review/> (2024 年 11 月 29 日閲覧)
- Fuad, M., Thakur, V. & Sinha, A. K. (2021) “Entry timing as a mixed gamble in cross-border acquisition waves: A study of family firms”, *Family Business Review*, No.34, Vol.3, pp.323-341.
- Gagné, M., Marwick, C., Brun de Pontet, S. & Wrosch, C. (2021) “Family business succession: what’s motivation got to do with it?”, *Family Business Review*, No.34, Vol.2, pp.154-167.
- Gorji, Y., Carney, M. & Prakash, R. (2021) “Celebrity couples as business families: A

- social network perspective”, *Family Business Review*, No.34, Vol.4, pp. 365-384.
- Gusenbauer, M. Schweiger, N. Matzler, K. & Hautz, J. (2023) “Innovation through tradition: the role of past knowledge for successful innovations in family and non-family firms”, *Family Business Review*, No.36, Vol.1, pp.17-36.
- Haag, K. Achtenhagen, L. & Grimm, J. (2023) “Engaging with the category: Exploring family business longevity from a historical perspective”, *Family Business Review*, No.36, Vol.1, pp.84-118.
- Haag, K. Almlöf, H. Madsen, M. B. & Neville, M. (2024) “Legal Advisors and Family Business Owners: A Transaction Cost Understanding of “the Ownership Contract””, *Family Business Review*, No.37, Vol.2, pp.292-314.
- Hadijilias, E. Hughes, M. & Scholes, L. (2022) “External crises and family social capital reconfiguration: Insights from the European debt crisis and the Covid-19 pandemic”, *Family Business Review*, No.35, Vol.3, pp.275-305.
- He, X. Zhang, Y. & Xiao, W. (2023) “Structure of Local Political Power and Family Firms’ Concentration of Wealth”, *Family Business Review*, No.36, Vol.2, pp. 199-222.
- Hoon, C. Brinkmann, J. & Baluch, A. M. (2023) “Narrative memory work of employees in family businesses: How founding stories shape organizational identification”, *Family Business Review*, No.36, Vol.1, pp.37-62.
- Hsueh, J. W. J. De Massis, A. & Gomez-Mejia, L. (2023) “Examining heterogeneous configurations of socioemotional wealth in family firms through the formalization of corporate social responsibility strategy”, *Family Business Review*, No.36, Vol.2, pp.172-198.
- Hussinger, K. & Issah, W. (2022) “Trade secret protection and R&D investment of family firms”, *Family Business Review*, No.35, Vol.4, pp.361-382.
- Jaufenthaler, P. Koll, O. Lude, M. & Prügl, R. (2023) “Country differences in family firm reputation: an exploration in Germany, India, and the United States”, *Family Business Review*, No.36, Vol.4, pp.352-374.
- Jaufenthaler, P. Schroll, R. & Grewal, D. (2024) “Consumer Responses to CSR News of Family Business Brands: An Experimental Approach”, *Family Business Review*, No.37, Vol.4, pp.431-448.
- Kammerlander, N. Patzelt, H. Behrens, J. & Röhm, C. (2020) “Organizational ambidexterity in family-managed firms: The role of family involvement in top management”, *Family Business Review*, No.33, Vol.4, pp.393-423.
- Kidwell, R. E. Eddleston, K. A. Kidwell, L. A. Cater, J. J. & Howard, E. (2024) “Families and their firms behaving badly: a review of dysfunctional behavior in family businesses”, *Family Business Review*, No.37, Vol.1, pp.89-129.
- Kubíček, A. & Machek, O. (2020) “Intrafamily conflicts in family businesses: A systematic review of the literature and agenda for future research”, *Family Business Review*, No.33, Vol.2, pp.194-227.
- Kurland, N. B. & McCaffrey, S. J. (2020) “Community socioemotional wealth: Preservation, succession, and farming in Lancaster County”, Pennsylvania. *Family Business Review*, No.33, Vol.3, pp.244-264.
- Leute, M. Bammens, Y. Carree, M. & Huybrechts, J. (2023) “Ownership heterogeneity and corporate innovation output: A study on family blockholders and activist hedge funds”, *Family Business Review*, No.36, Vol.2, pp. 254-280.



- Lu, F. Kwan, H. K. & Zhu, Z. (2021) "The effects of family firm CEO traditionality on successor choice: The moderating role of socioemotional wealth", *Family Business Review*, No.34, Vol.2, pp.213-234.
- Lubinski, C. & Gartner, W. B. (2023) "Talking about (my) generation: The use of generation as rhetorical history in family business", *Family Business Review*, No.36, Vol.1, pp.119-142.
- Madison, K. Daspit, J. J. & Marett, E. G. (2021) "Does knowing "who knows what" matter for family firm innovation? Insights from transactive memory system theory", *Family Business Review*, No.34, Vol.2, pp.168-192.
- Madison, K. Eddleston, K. A. Kellermanns, F. W. & Powell, G. N. (2021) "Kinship and gender in family firms: New insights into employees' organizational citizenship behavior", *Family Business Review*, No.34, Vol.3, pp.270-295.
- Magrelli, V. Rovelli, P. Benedetti, C. Überbacher, R. & De Massis, A. (2022) "Generations in family business: A multifield review and future research agenda", *Family Business Review*, No.35, Vol.1, pp.15-44.
- Manelli, L. Magrelli, V. Kotlar, J. Messeni Petruzzelli, A. & Frattini, F. (2023) "Building an outward-oriented social family legacy: Rhetorical history in family business foundations", *Family Business Review*, No.36, Vol.1, pp.143-168.
- Marques, P. Bikfalvi, A. & Busquet, F. (2022) "A family imprinting approach to nurturing willing successors: Evidence from centennial family firms", *Family Business Review*, No.35, Vol.3, pp.246-274.
- Martin, J. A. Evert, R. E. & Payne, G. T. (2024) "Nonfinancial Outcomes in Family Business Research: A Review and Future Research Agenda", *Family Business Review*, No.37, Vol.1, pp.161-185.
- McAdam, M. Clinton, E. Hamilton, E. & Gartner, W. B. (2023) "Learning in a family business through intermarriage: a rhetorical history perspective", *Family Business Review*, No.36, Vol.1, pp.63-83.
- Michael-Tsabari, N. Houshmand, M. Strike, V. M. & Efrat Treister, D. (2020) "Uncovering implicit assumptions: Reviewing the work-family interface in family business and offering opportunities for future research", *Family Business Review*, No.33, Vol.1, pp.64-89.
- Michiels, A. Botero, I. C. & Kidwell, R. E. (2022) "Toward a family science perspective on executive compensation in family firms: A review and research agenda" *Family Business Review*, No.35, Vol.1, pp.45-67.
- Miroshnychenko, I. De Massis, A. Barontini, R. & Testa, F. (2022) "Family firms and environmental performance: A meta-analytic review", *Family Business Review*, No.35, Vol.1, pp.68-90.
- Miroshnychenko, I. Torres de Oliveira, R. De Massis, A. & Überbacher, R. (2024) "Family involvement and firm performance: A worldwide study unveiling key mechanisms", *Family Business Review*, No.37, Vol.4, pp.449-475.
- Palm, M. D. Diaz-Moriana, V. & Kammerlander, N. (2024) "Restructuring of Poorly Performing Family-Owned Portfolio Firms: The Role of Socioemotional Wealth", *Family Business Review*, No.37, Vol.2, pp.267-291.
- Pongelli, C. Calabrò, A. Quarato, F. Minichilli, A. & Corbetta, G. (2021) "Out of the comfort zone! Family leaders' subsidiary ownership choices and the role of



- vulnerabilities”, *Family Business Review*, No.34, Vol.4, pp.404-424.
- Qiu, H. & Freel, M. (2020) “Managing family-related conflicts in family businesses: A review and research agenda”, *Family Business Review*, No.33, Vol.1, pp.90-113.
- Quarchioni, S. Ciccola, R. & Chiucchi, M. S. (2022) “Advising in family firms: Shaping relational dynamics and trustful connections in strategy work”, *Family Business Review*, No.35, Vol.4, pp.338-360.
- Radu-Lefebvre, M. Davis, J. H. & Gartner, W. B. (2024) “Legacy in family business: A systematic literature review and future research agenda”, *Family Business Review*, No.37, Vol.1, pp.18-59.
- Randolph, R. V. Alexander, B. N. Madison, K. & Barbera, F. (2022) “When family business meets social enterprise: An integrative review and future research agenda”, *Family Business Review*, No.35, Vol.3, pp.219-245.
- Rovelli, P., Ferasso, M., De Massis, A., & Kraus, S. (2022) “Thirty years of research in family business journals: Status quo and future directions”, *Journal of Family Business Strategy*, No.13, Vol.3, 100422.
- Ruf, P. J. Graffius, M. Wolff, S. Moog, P. & Felden, B. (2021) “Back to the roots: Applying the concept of individual human values to understand family firm behavior”, *Family Business Review*, No.34, Vol.1, pp.48-70.
- Shen, W. Gu, Q. & Lu, L. H. (2024) “Do Family Owners Hold Nonfamily CEOs More Accountable Than Family CEOs for Firm Performance? A Dynamic Perspective”, *Family Business Review*, No.37, Vol.3, pp. No.347-No.369.
- Sieger, P. Akhter, N. & Chirico, F. (2023) “Rural and Urban Family Business Portfolio Growth: The Role of Entrepreneurial Legacy”, *Family Business Review*, No.36, Vol.4, pp.375-401.
- Simarasl, N. Jiang, D. S. Kellermanns, F. W. & Debicki, B. J. (2020) “Unmasking the social ghost in the machine: How the need to belong and family business potency affect family firm performance”, *Family Business Review*, No.33, Vol.4, pp.351-371.
- Skorodziyevskiy, V. Sherlock, C. Su, E. Chrisman, J. J. & Dibrell, C. (2024) “Strategic change in family firms: A review from an institutional environment and firm size perspective”, *Family Business Review*, No.37, Vol.1, pp.130-160.
- Stasa, M. & Machek, O. (2022) “Social capital in the family business literature: A systematic review and future research agenda”, *Family Business Review*, No.35, Vol.4, pp.415-441.
- Suddaby, R. Ng, W. Vershinina, N. Markman, G. & Cadbury, M. (2023) “Sacralization and the intergenerational transmission of values in Cadbury”, *Family Business Review*, No.36, Vol.3, pp.296-314.
- Swab, R. G. Sherlock, C. Markin, E. & Dibrell, C. (2020) ““SEW” what do we know and where do we go? A review of socioemotional wealth and a way forward”, *Family Business Review*, No.33, Vol.4, pp. 424-445.
- Tognazzo, A. & Neubaum, D. O. (2020) “Family business leaders’ metaphors and firm performance: Exploring the “roots” and “shoots” of symbolic meanings”, *Family Business Review*, No.33, Vol.2, pp.130-151.
- Vardaman, J. M. Markin, E. T. Penney, C. R. Marler, L. E. & Mckee, D. L. N. (2022) “Willing and able? The screening and adoption of habitual family venture opportunities”, *Family Business Review*, No.35, Vol.2, pp.126-139.

- Virk, R. Corner, A. J. Combs, J. G. & Jaskiewicz, P. (2024) “Social exchanges in family businesses: A review and future research agenda”, *Family Business Review*, No.37, Vol.3, pp.320-346.
- von Bieberstein, F. Crede, A. K. Essl, A. & Hack, A. (2020) “Signaling and stakeholder honesty: On the individual and combined effects of owner family membership and religious affiliation”, *Family Business Review*, No.33, Vol.3, pp.265-283.
- Yang, J. Ma, J. & Doty, D. H. (2020) “Family involvement, governmental connections, and IPO underpricing of SMEs in China”, *Family Business Review*, No.33, Vol.2, pp. 175-193.
- Yilmaz, Y. Raetze, S. Groote, J. D. & Kammerlander, N. (2024) “Resilience in family businesses: a systematic literature review”, *Family Business Review*, No.37, Vol.1, pp.60-88.
- Yu, Y. Bai, T. Tang, F. & Liu, Y. (2023) “The impact of nonfamily CEOs on family firms’ pursuit of political connections: the theory of bounded reliability perspective”, *Family Business Review*, No.36, Vol.3, pp.315-346.
- Zhang, X. Fang, H. Dou, J. & Chrisman, J. J. (2022) “Endogeneity issues in family business research: Current status and future recommendations”, *Family Business Review*, No.35, Vol.1, pp.91-116.
- Zona, F. Bannò, M. & Collier, G. (2022) “International expansion and firm growth in domestic markets: Family versus non-family firms”, *Family Business Review*, No.35, Vol.2, pp.159-183.
- 黒瀬直宏『複眼的中小企業論—中小企業は発展性と問題性の統一物』同友館、2012年。
- 佐竹隆幸『中小企業存立論』ミネルヴァ書房、2008年。
- ファミリービジネス学会編、奥村昭博、加護野忠男編著『日本のファミリービジネス—その永続性を探る』中央経済社、2016年。
- 山中篤太郎『中小工業の本質と展開』有斐閣、1948年。